

# 食料・資源をめぐる 人・組織・社会の選択を知る

生物資源経済学研究室 茂野隆一・首藤久人

## 私たちの身近な財—食料

- ✓ 食料は、私たちにとって基礎的かつ身近な財であり、私たちの暮らし向きを支えています。
- ✓ 食に関する生産、消費、流通の変化や動向、そしてそれに関わる資源利用の問題を知ることは、私たちの社会を理解する一つのアプローチとなりえます。

たとえば、日本の農業のあり方や課題については、その競争力、効率性、持続性の観点から多くの議論が存在しています。

また、あらゆる人がいつでも安全な食料に栄養摂取上も十分にアクセスできる状態は、残念なことに、国の内外を問わず確保されているわけではありません。

- ✓ こうした生産上の課題や、私たちの食への接し方の変化、栄養不足の状態、食の安全性が脅かされる事件・事故といった状況が、どのような要因で生じているのかを探る。このことによって、フード・セキュリティへの方策の糸口が見つかる可能性があります。

## 経済学的視点の必要性—機会と選択を知る

- ✓ 私たちの暮らし向きや上記のような問題は、私たち自身が行う意思決定の結果や過程の中で生じています。また、私たちの意思決定は、選択しうる機会に制限されます。
- ✓ 食をめぐる社会の変化や、フード・セキュリティの問題を理解するには、食や資源の利用に関する私たちの選択の背景にある機会に目を向ける必要があります。

## 私たちの研究室の視点

私たちの研究室では、上記のような課題について、次のような観点から研究を行っています。

### 1. フードシステム

食料が食卓に届くまでには、流通業や食品産業などの関連産業が関わっており、近年こうした関連産業の役割は大きなものになっています。農業、関連産業から食料消費にいたるまでをひとつのシステムとみなして、フードシステムと呼んでいます。現代の食料問題は、フードシステムという視点でトータルに考えていく必要があります。

### 2. 社会・組織と人々の意思決定の相互依存関係

組織や社会は、個人の集合体です。つまり、私たちは、意思決定の相互依存関係の中で生活しています。平たく言えば、われわれの食に対する接し方、食にかかわる様々な組織のあり方は、社会関係への視点を抜きに考察することはできません。

### 3. 資源利用をめぐるインセンティブの問題

食の問題を考えると、その生産、流通、そしてその消費・処分に関連する資源利用について意識する必要があります。持続的・効率的な資源利用のための意思決定に及ぼす内容、つまりインセンティブを考察することが重要になってきます。

## 公表された研究内容の例

・ 茂野隆一「食料消費における家事の外部化—需要体系による接近—」『生活経済学研究』（購買・調理なども含めたライフスタイルの変化から食料消費の変化を探る。）

・ 首藤久人「インドの公的分配システムの地域性と中央・州関係」『農業経済研究 日本農業経済学会論文集』（インドの政府による食料分配政策が貧困度の思わしくない州で積極的に用いられていない要因を探る。）